



なかだ としあき

中田 利昭 議員

市役所における カスタマーハラスメン (カスハラ) 対策について

①市役所におけるカスハラの実態は②カスハラが職員及び行政運営に与える影響について③カスハラの対応体制について④悪質な事案の対応方針について⑤職員を守りながら市民サービスを維持するための今後の取組について

答弁 ①②市では、カスタマーハラスメントの正確な件数は把握していないものの、窓口での大声による叱責や長時間の居座り、繰り返しの来庁や電話による過度な苦情対応など、複数の事例を把握しており、特定部署に限らず市役所全体で発生していると認識している。これらは職員の精神的負担を増大させ、業務の停滞や他の市民への対応時間の減少、職員の士気低下を招き、行政サービ

スの質にも影響を及ぼしているとしている。③④対応については、担当職員だけで抱え込まず、管理職を含めた組織的対応を基本とし、必要に応じて危機管理課や警察、顧問弁護士と連携して対応している。悪質な事案では、退去命令や警察への通報、さらには顧問弁護士へ窓口対応を一本化するなど厳格な措置を講じる方針である。また、これまでのクレーム対応研修に加え、カスタマーハラスメントに特化した専門研修を実施する考えを示した。⑤さらに、令和8年10月施行の改正法や総務省の指針を踏まえ、既存の「不当要求行為等対応マニュアル」と「クレーム対応マニュアル」を見直し、カスタマーハラスメントに特化した新たなマニュアルを整備するほか、組織的な報告体制の強化や専用相談窓口の設置を進める予定。広報紙やホームページを活用した市民への啓発にも取り組み、職員が安心して働ける環境を整えながら、市民サービスの維持・向上につなげていく。市民の皆様には広報誌やWEBサイトにて理解を促進する考え。

YouTube ▶



みずかみ まさひろ

水上 雅廣 議員

物価高騰対策について

①ナフサ対策について
②国の補正予算への対応について
③先の重点支援交付金の成果と剰余金の使途について、それぞれ現状を踏まえ対策などをどのように考えているのか

答弁 ①東情勢の影響で燃料や資材の価格高騰と供給不安が続くが、市民生活や公共サービスへの直ちの支障は生じていない。ナフサ由来製品は自動車、建設、医療など広い分野への影響が確認されており、国は必要量確保を示し、国内精製や輸入増、在庫活用を進めている。市としては状況把握と既存支援策の実施に注力し、場当たりの損失補填や、給付を行うのは適当ではなく、真に困っている市民の最低限の暮らしを支える支援を行うことと同時に、事業者が状況の変化に対応できる経営体質に転換していくための支援を行うことが

基本であると考えている。事業者の経営体質改善や地域循環型資材利用を推進。建設業では公共調達の価格転嫁や労務費対応を強化し、事業量確保と国や県の事業推進を働きかけている。

②重点支援地方創生臨時交付金の市への配分額は1,510万円で、規模は小さく、単独で何かを打ちだせるほどの金額ではないため、現在取り組んでいる施策と連携して効果的に活用を図り、市民生活や地域経済への広範な支援を目指す。状況に応じて秋の追加措置も検討する。③現在も一部事業を継続して実施しているところで、全体的な検証は今後取りまとめる予定。ごみ袋の無料配布については、当初の想定を上回る引換が短期間に集中したことで、一時的に引換を停止し、追加発注等の対応を行っている。8月には全面的な引換再開を予定している。さるぼぼコインを活用した生活応援セールは、多くの市民に利用いただき、地域経済の下支えに一定の効果があったと考える。2回目を7月31日(金)及び8月1日(土)の2日間で開催する予定。

YouTube ▶





お が さ わ ら み ほ こ
小笠原 美保子 議員

飛騨市内の農業推進について

①飛騨市内における農業の担い手育成について②経営志向の新規就農者・人材誘致の促進について③今後の農業政策の方向性について

答弁 ①関係機関と連携したサポートチームを組織し、飛騨地域トマト研修所を核として就農準備から一貫した支援体制を構築している②就農体感ツアーやフェアを通じ、営農イメージを具体的に伝えている③農業法人への雇用や第三者継承等、多彩な就農形態を積極的に後押し、スマート農業等の経営力強化策を一体的に進めていく考えである。

災害時の分散型避難体制について

①車中泊避難の体制について②飛騨市版・車中泊避難ガイドブックの作成について③車中泊避難スペースの指定・登録制度について④避難訓練について

答弁 ①車中泊避難の駐車スペースは市指定避難所の駐車場を基本とし受付で避難者カードを提出、避難所運営委員会に参加し管理班業務を担任する事と定めている②必要な要領やルールは避難所運営マニュアルに定めている③市指定避難所の駐車場を使用することを原則、定めている④防災訓練等で車中泊避難を想定した訓練を実施する考えはない

クラブ活動の新入生への支援について

①地域クラブ活動への申し込みについて②中学1年生の地域クラブ活動への参加状況について③地域クラブ合同説明会について

答弁 ①新入生が円滑に地域クラブ活動に参加できるようチラシの配布や説明会の実施等を通じ周知を行ってきた②6月8日現在、市内中学1年生170名中5割にあたる85名が認定地域クラブに参加している③これまでの取り組みの成果や課題を検証し、次年度以降の合同体験会や説明会へ反映させたいと考える。

YouTube ▶



の む ら か つ の り
野村 勝憲 議員

公金ふるさと納税の活用？

5月高市総理、林総務大臣の国会事務所と総務省訪問。林大臣が会見でふるさと納税は公金！住民サービス、地域振興に活用！！と強く述べられた事を前提に①昨年度のふるさと納税高山市が4年連続30億円超、飛騨牛が返礼品1位で8.6億円。下呂市過去最高の15億円、米が返礼品1位で6.9億円。飛騨市は令和5年度をピークに下降、金額と要因は②毎年返礼品1位が飛騨牛。その畜産農家は飼料高騰等苦しい経営状況にあり、ふるさと納税での支援が急がれる③手数料10%の仲介サイト事業者上位5社と金額及び地元仲介支援事業者への手数料は？

答弁 ①前年比1割減の12.8億円、返礼品1位が飛騨牛3.8億円。精肉2事業者廃止等が減少要因。②前向きに検討する。③ふるさとチョイス、楽天、ふるなび、さとふる、ANAの順、他含め1.4億円。

地元事業者ヒダカラへ4,700万円の手数料。

市支援で開学の私立大学大きく定員割れ

①この春私立4年生大学5校開学。市から多額の支援金を受け同じ共創学部名のCoIUと武雄アジア大学2校のみが半分以下の定員割れ。文科省は遺憾の意を表明。市の思いは？

②飛騨市からCoIUの学生に祝金3万円、生活支援金年3.6万円支給。ふるさとを離れて生活する学生達にも支給をすべきではないか？

答弁 ①市から申すことはありません。②CoIUの学生のみを対象に支給していく。

石棒と飛騨みやがわ考古民俗館について

①学芸員の調査やPRが実を結び、縄文時代の石棒等国の重要文化財へ。今後の展望は？②飛騨みやがわ考古民俗館の来館者対策は？③次は杉崎廃寺跡を！

答弁 ①更に歴史文化の魅力を発信②ふるさと納税8,000万円を有効活用し、国登録の博物館を目指す③国の史跡を目指し地元と共に取り組む。

YouTube ▶





たかはら くに こ

高原 邦子 議員

博物館・美術館の運営について

博物館・美術館の収蔵庫が満杯になっていることが、全国的に問題になっている。高山の飛騨センターの収蔵庫には飛騨市の美術品も預けている。また博物館法が4月より改正され廃棄できるとの文言が追加された。飛騨市の博物館・美術館に対するスタンスを問う。
①来年3月までに移管が求められている飛騨センターにある美術所蔵品はどうなるのか②収集・保管・研究・展示への考え方は③学芸員の資質向上・成長のために心掛けていることは④地域の文化・歴史を知り興味を持つことは、子どもたちの郷土愛を育むがどのように考え展示をしているのか。

答弁 ①飛騨市美術館と湿度管理が可能な山樵館収蔵庫に分けて分散収蔵する。②収集は飛騨市の収

集方針を考慮し慎重に決めている。保管は飛騨市美術館と飛騨みやがわ考古民族間で、しかし、満杯に近い状態。③学芸員は各学会や研究会等に出席し研鑽を積んでおり、旅費も支給している。④来訪者が主体的に展示品を鑑賞し思考を深めるようにしている。

修学旅行や校外での活動での安全確認について

沖縄辺野古で生じた漁船転覆事故が大きな問題となっている。教師が乗船していなかったことも一因である。①修学旅行や校外活動での安全性はどのようにしているのか。②行程の説明は保護者を含めてきちんとしているのか。③白タク・白バス行為など触法にならぬように説明等はしているのか。

答弁 ①事前のリスクマネジメントをしている。②学校・家庭・地域で情報共有をしている。③継続的な指導や安全・安心な教育環境、地域活動の推進に全力を尽くしている。

YouTube ▶



こみやま え み こ

籠山 恵美子 議員

飛騨市の平和教育について

①教育基本法第14条「政治的教養」について②主権者教育に第14条は活かされているか③学校が沖縄の不幸な事故で委縮することのないように

答弁 ①政治的中立性を確保しつつ平和学習の推進を重視していく。②事実に基づき多様な意見を比較・議論し政治的教養を育む教育活動を展開している。③飛騨市は中学生対象に長崎ピースフォーラム派遣、被爆者体験講話の開催など平和に関する取り組みを進めてきた。今後も新たな活動の検討を進める。

物価高騰の検証と継続について

①物価高騰支援策の検討はしたか②市民の声にどう対応しているか③求められる支援策について

答弁 ①一部事業を継続しているため、今後取りまとめて検証する。②さるぼぼコインの応援セールやゴミ袋の無料配布については市民からさまざまな指摘をいただき真摯に受け止めている。今後もし意見や事業の検証結果を踏まえ、より効果的な支援策を検討する。③一部の事業活動にはナフサの影響が見られ始めているので、必要な対応を検討していく。

第10期介護保険制度と制度からもれる市民への支援について

①第10期計画はどのようになるか②国の大改定に対応できるか③制度外の市民への救済策は

答弁 ①利用者や事業者からのアンケート結果の分析や人口減少下における高齢者を守りつつ制度の持続性を確保する。②2027年度の改定は給付と負担のバランス調整が極めて難しい。介護事業所に寄り添いながら支援策を検討する。③介護保険のような「共助」の制度に留まらず、公助と互助を組み合せ地域の衰退に対応していく。

YouTube ▶





もり かなめ
森 要 議員

ごみ焼却施設整備に係る基本方針について

今回の補正予算のじん介処理費の中で、ごみ焼却施設整備に係る基本方針について、更なる具体的な検討を行う為に委託料810万円が計上された。この予算計上の背景について、次の3点を伺う。①予算計上の背景は。②ごみ処理施設整備についての背景は。③今後の整備基本方針は。

答弁 ①令和4年度、将来のごみ処理体制に関する検討というのを実施した。これまでの間、一番大きな変化は物価の高騰であり、より現実的な視点から、本市にとっての最適なごみ処理のあり方を改めて検討して、具体的な方策を導き出すことを目的としている。

②古川町谷地内の南吉城クリーンセンターは平成元年4月に稼働し、その後飛騨地域の広域化とい

う計画があったが、平成18年7月に、飛騨地域3市1村の首長及び飛騨振興局長による、飛騨圏域廃棄物問題検討会が開催され、飛騨地域全体での広域ごみ焼却施設は建設せず、各市町村で個別に対応するというに変更された。これを受け、本市では単独で施設を建設することになり、地元区のご理解を得て、新施設の稼働期限を、令和14年度末として締結され、この場所での焼却施設の稼働を終了しなければならない状態にある。

③人口減少が進む中で、ごみ処理施設単独での新設や更新を図ることは、将来の市民に多大な負担を強いることになりかねないという考え方を踏まえつつ、しっかりとした財政負担の見通しを立て、国の補助金の積極的な活用を含め、財政負担の軽減を最優先して、将来的なコストを最小限に抑えることを基本に、客観的なデータに基づいて多角的な視点から現実的な検討を行い、飛騨市ごみ焼却施設整備に係る基本方針を取りまとめていきたい。



YouTube ▶



じょう が ふき とよ たか
上ヶ吹 豊孝 議員

飛騨市の今後の稲作事業は

水稻は日本の農業を支える基幹作物である。現場では多くの手間と時間が必要とされ解決策としてスマート農業への関心も高まっている。しかし中々進まないのが現状である。①湛水土壤中直播の評価は②ドローン活用の推進は③スマート農業技術で新たな取組は④山間部の小規模水田の将来は

答弁 ①湛水土壤中直播は直接水田へ播種することで省力化・省人化を図る有効な技術であり、飛騨地域でも十分導入可能な技術と確認している。②ドローンによる直播の実証試験を開始し、出芽状況や雑草の発生状況を注視し、今後の取組を進める。③農業者や関係機関との連携で本市に適したスマート農業を進める④今後の技術発展を注視し、小規模水田に適した技術の取組を進める。

飛騨市のAI導入について

最近企業によるAI（人工知能）導入の記事を目にしない日は無い。今や製造業や金融業、サービス業など幅広くAIの活用が進んでいる。自治体においても行政事務の効率化や住民サービス向上を目的としてAI活用が進められている。①AI導入の目的は②AI活用の業務内容は③AI導入で若手職員の教育は

答弁 ①市としてはAIを使ってみる段階である。AIを活用して業務効率の進捗状況、将来的な職員不足の対応や職員数の抑制・配置の見直し等、試行錯誤繰り返す中で見極める。②AIを活用した総合案内など、市民の利便性に資するサービスへの活用。AIと人が担うべきことのバランスを模索し、市民の皆様の利便性と職員負担軽減について実証していく③時代の変化に応じた仕事のスタイル、人材育成の在り方を追求する。



YouTube ▶



まえ かわ ふみ ひろ

前川 文博 議員

遊具の安全性について？

①神岡小学校プール工事によって、遊具が一部掘り起こされた。基礎が陶器製の植木鉢であるが安全性の問題はどうなのか。また、再設置をやめた理由は？②市内の学校や保育園、公園などに設置してある遊具の安全基準などの確認はどこでしているのか

答弁 ①年次点検で安全性が確認されていた。工事完成後には再設置する予定であったが、児童の利用がほぼない状況と、設置後 20 年を経過し今後さらに老朽化が進行する可能性が高いことから、再設置はしないことにした。②学校や保育園、公園の遊具は、それぞれの所管部局が毎年専門業者による安全点検を実施し、通常使用における安全性を確認。遊具の標準使用年数は木製 10 年、鋼製 15 年が目安。ニーズにより必要に応じた整備を進める。

ショートステイ休止後の対応について？

①3 月で休止となったショートステイ。毎日 20 人程度いた利用者が、年度末には毎日 10 人程度まで減っていた。昨年 10 月以降は 10 ～ 15 人ほどの利用者はどこへ？②介護施設の申込をしたが、満員で利用できない状況が多い。30 人以上待ちとの施設もある。どんな状況なのか？

答弁 ①特養の空床を利用するショートステイを概ね 10 床確保する計画だった。実際には特養は法人における重要な収入源であるため、3 床程度に抑えている。神岡町以外のショートステイを利用されるケースもある。送迎時に介護タクシー等を利用する場合の費用負担を少額に抑える施策を 4 月から開始している。②令和 2 年度 134 名の待機者も令和 6 年度 78 名、令和 7 年度 80 名。入居待ちの期間については、申し込み順で入居が決まらないこともある。平均で 6 か月から 1 年ほどと聞く。



YouTube ▶



すみ だ きよ み

住田 清美 議員

少子化における学校運営について

①少子化によって危惧されること②飛騨市学園構想における大学との連携について③少子化における不登校支援について

答弁 ①集団活動や多様な人間関係の中で学ぶ機会が少なくなることが危惧されるが、他校との交流やオンラインの活用、地域の協力をいただきながら安定した学校運営を進めていく。②大学生との交流や協働を通して、子どもたちの学びが深まることを期待している。既に、防災士資格を持つ大学生と中学校との学びの活動や、地域の子どもたちや地域住民との交流や支援活動への関心の高さも感じており、今後も大学との連携体制の構築に務めていきたい。③親と子が相談できる場として「グリーンルーム」を市が設置し利用実績もある。また、ハルジオンは学校や行政とは異なる居場所

の一つとして重要な役割を担っている。今後も関係機関と連携をとりながら適切な支援に務めていきたい。

シニア世代の地域づくりについて

①地域におけるシニア世代の役割について
②飛騨市シニアクラブの現状について

答弁 ①シニア世代は「支えられる側」と同時に「支える側」としても社会の重要な役割を果たしていると認識している。長年の知識や技術、文化や伝統の継承者としても地域づくりに欠かせない存在である。②人口減少により、役員のなり手不足を理由に解散していく単位クラブがほとんどで、特に神岡地区が顕著である。市としてもシニアクラブ事務局と伴走しながら支援を行うが高齢化自体には根本的な策がない現状を受け止め、持続可能な社会づくりが重要と考えている。



YouTube ▶



い ば た こう じ
井端 浩二 議員

外国人労働者の支援について

①現在飛騨市の外国人労働者数と今後の展望について②日本語教室や生活マナー等の勉強会開催について③外国人労働者の社宅について

答弁 ①令和8年5月末時点で365人、企業数については正確な数値は把握していないが補助金申請などから33社以上あると思われる。②過去に日本語教室を開催して、業種が多様であり勤務時間の違いや移動問題、日本語能力の違い、試験のための学習なのか、生活に必要な学習なのか授業内容が異なるなどの諸問題があり、このことを考えると各事業所内での開催が有効と考え支援事業補助金や業務支援員を派遣して支援している。生活マナーの講習会については、事業者からも要望があり外国人労働者交流会の中で実施しており今後も要望をヒアリングしながら実施したい。③事業者か

らも要望を頂いており、外国人に限らず雇用確保のために職員が移住するアパート等の不足の課題もあり、検討して行きたい。

自主防災組織連絡協議会について

①自主防災組織連絡協議会準備会が立ち上がったが今後の計画は②各地区での自主防災組織の立ち上げについて③ヘルメットの配布または貸出について

答弁 ①今後3か年計画のもと、令和10年度に飛騨市防災委員設置条例の制度を仮の目標とし、条例に基づき任命された防災委員による本格的な活動開始を目指したい。②人口減少や高齢化、地域の事情により防災士会、防災関係者、民生委員なども交えた多様な活動をしていくため防災委員会とは異なる組織として自主防災組織協議会と称している。今後も引き続き丁寧な説明をして行きたい。③防災士会と協議したい。



YouTube ▶



さ とう かつ なり
佐藤 克成 議員

他市で計画されている産業廃棄物処理場について

①本市への影響について②飛騨ブランド構築への影響について③県への要望や意見提出について

答弁 ①計画は現在、環境影響調査が実施されている段階。計画地は庄川水系であり、飛騨市とは水系が異なるため、水質等を通じた直接的な影響はないものと考えている。②地域ブランドへの懸念は心情的には十分理解できる。一方で、風評被害や地域ブランドへの影響は、どのような実質的な環境被害があるかによる。問題は施設そのものではなく、適切な管理・運営がなされるかどうかであり、市としてもその点を注視していく。③飛騨市として独自に要望や意見書を提出することは現時点では考えていない。飛騨市は流域ではなく、法的根拠を持って疑問や問題を提起できる立場では

ない。今後は、高山市や県の動向を注意深く見守っていく。

飛騨市まるごとアグリパーク構想について

①市の構想の3本柱について②農業に参画しやすい環境づくりについて③他のアグリパーク重点テーマについて

答弁 ①「出荷者コミュニティの構築」「商品の固定化を防ぐ取組」「新たな生産者確保」の3点を柱として推進する。農業に携わる人材の裾野を広げ、直売所への出荷者数・出荷量の安定、品目の多様化を目指す。②若者やセカンドキャリア層を主要なターゲットとし、「学ぶ」「作る」「売る」という一連のプロセスを一貫して体験できる環境を整え、本格的な農業へのステップアップを支援する。③飛騨市の地域特性から、「直売所等を中心とした地域活性化モデル」が最も効果的と判断した。他のモデルの要素も統合的に取り入れながら、地域農業の発展に取り組んでいく。



YouTube ▶